方城

第七卷 第五號

発行所
方城村公民館
方城村図書館
編集発行人
荒木良和
印刷所
冷牟田印刷合資会社
八幡市折尾町国道筋

村政について

三菱方城礦業所
勤労課長　尾崎努

編集子から村行政の批判について一文を要請されたが、これはなかなか当り触りのある難題である。もとゝ批判には責任が伴うし、批判するには実態の把握が前提となる。平素の不勉強で村行政の実態を余り知らない私は、従って批判する根本的資格に欠けていることになる。恥しいことだが、本紙前号で高津助役の慨歎された村議会の傍聴も、殆どしたことのない者の一人である。といって、そう度々編集子に御迷惑をかける訳にもいかないので、村政の一端について主観的な雑感を述べて責を免れ度い。

一、文化村ということについて

文化方城村の名声は天下に喧伝されている。処で文化とは何ぞや、ということになるとなかゝ難しい。パンとコーヒで朝食をすまし、夏は扇風機、冬は電気ストーブで温度を調節し、電気洗濯機で主婦の時間を節約し、洋風の応接間で椅子に腰掛けて外国映画を讃美する生活様式が文化生活の全てではあるまい。文化の本質は其の語源が示す通り心のカルチュアー（耕す）即ち教養でなければなるまい。教養という精神面を無視した外的物質生活は文化の仮面でしかない。

処で、文化方城村のモットーは読書、清潔、緑化である。読書はいみじくも文化の本質・教養を意味している。清潔も、この頃忘れ勝な心の清潔をも意味しているとなると、全く素晴らしい。紊乱を憂えられている性道徳への清潔感、造船、保全にまつわる汚職の金銭に対する清潔感なる程斯うなれば文化国家を憲法に謳った日本国のモデル村である。殊に文明の恥とされている各種疫病はこの清潔によって「地上より永遠に」となるであろう。物心両面に亘るこの清潔こそ、当に文化の本質であるとも思はれる。塵埃の除去、糞尿の処理、道路の改修に村当局が力を注いでいられるのも、文化方城村として宜なるかなである。当局のケイ眼に、唯叩頭するのみである。願はくば更に一層清潔をモットーに諸施設の完備を図り、九仞の功を一簣に欠ぐことなき様祈念する次第である緑は平和を意味する。醜い争のない平和方城村、こちたき再軍備反対論や、二つの平和のはてしなき論議に較べ、如何にも垢抜けのした芸術的表現である。全村緑陰で書を繙く、思うだけでも素晴らしい。

読書、清潔、緑化、当に文化の本質を穿ち得て妙である。

二、自治ということについて

自治とは自ら修めることである。治国平天下の道は修身斉家に発する政治の本質は自治である。自治には最近流行の主体性の確立が前提になる。主体性の確立を主張すれば、当然責任が伴う。自治とは責任行政である。村政の是非は村民の生活に直ぐさま響く。効果は覿面である。従って村政に当る者は、小心翼々眠ても醒めても村民の幸福が念頭から離れない。一国の宰相は勤まっても村長は勤まらないと云はれる所以でもある。

議員諸公についても同断で、選挙区を遠く離れた東京での国会議員の行動とは違って、その一挙手一投足が批判の的になる。従って身を慎み正義公平の士にならざるを得ない。村行政こそ、当に硝子箱の中に曝りなき公明行政でなければなるまい。瓜田に履を入れず、李下に冠を正さず式の潔癖性が強く要請される所以である。

民主々義政治は自治に始まり自治に終る。民主化のバロメーターは自治である。村行政の範囲は小さい。従って特に全体的視野に立つ公平感が強く要請される。何が喫緊の施策であり、何が公平な施設であるかは観念でなく体をもって感得する。選挙の為の人気取り的ボス行政の排除される所以である。

三、愛郷心について

公民館活動に於いて、特に力を注いで欲しい点は愛郷の念の養成である。アメリカ占領行政による日本人の精神分断の所産かも知れないが、愛国とか愛郷とか云えば、反動だ、逆コースだと叫ばれるので、事さら口にするを避ける傾向がある。愛郷は人間本然の私情である。志を立て入郷関を出で、錦をかざって帰る処は祖先墳墓の故郷である。愛するに価する美しい村の建設のため、挙村一致虚心に施策を講ず可きである。

四、教育について

本年度歳出総額五千四百万円中教育費は一千九百五十万円で三六％である。勿論伊方小学校改築費が一千二百万円含まれてはいるが、村費中に占める学校教育費の比重は平素でも相当高いものと思はれる。学校施設には、必要にして十分な経費を計上しなければならない。それは学校の充実を望む村民の声である。他村に比を見ないPTAの熱心な教育活動もこゝに淵源する。教育委員、PTAの協力活動が常に、批判的立場に立脚して行はれている点に、深い敬意を表するものである。

教員という言葉が最近頻々として使はれている先生という精神的敬称に較べて教育労働者的臭味が強いなる程、斗争は先生組合ではピンと来ないで、どうしても教員組合でなければならないだろうが、私はやはり先生という言葉を愛惜する。教育的信念に燃えた朴訥な風格を懐しむのは私一人ではあるまい。見果てぬ夢を子に託している愚な父兄として先生方にこの愛の風格を望むのは果して無理であろうか。

ドイツがナポレオンの馬蹄に蹂躙された時、祖国ドイツの復興を国民に訴えた哲人フィフテは教育の重要性を絶叫した。敗戦により失はれた魂は教育によって奪回されねばならない。その教育とは施設ではない。烈々火を吐く愛国愛郷の熱意をもつ教育者その人にある。

× × ×

村当局、議員諸公、教育委員、先生方の愛郷の念を基調とした、絶えざる営為によって村民の全てが

「心に太陽を、唇に歌を」

もって、明朝に日々を楽しむ緑の文化方城村を建設されんことを切に念じてやまない。

【夏期の衛生】

特に赤痢豫防に就いて

診療所　渡辺医師

雨期から夏期にかけては消化器系の病気が多く、伝染性の赤痢、疫痢等の流行期である。消化器系の伝染病としては此の外、腸チフス、パラチフス等があるが、赤痢は何と云っても夏期伝染病の王者である。夏期には消化器系統即ち胃腸の抵抗力が低下すると共に、不潔な水や腐敗した食物、未熟な果物等を飲食する機会が多く、一方気温が高いので病原菌の発育繁殖が盛んとなり、又此等の病原菌を媒介する蠅等の昆虫類が多いこと等が、夏期に消化器系の伝染病が多く、下痢患者が多くなる原因である。

赤痢は終戦後一時少くなって居たのであるが、食糧事情の好転と共に其の数を増し毎年多数の患者を発生して居る。

方城村に於ても毎年多数の赤痢患者の発生を見居り、今年も二月頃より次々に赤痢が発生して居て、現任尚数名の患者が、伝染病舎に収容されて居る状態であり此れから流行期に向って赤痢の多発が心配せられて居る。

赤痢に対して戦後色々の優秀な薬品が出来て居るのであるが、それにも拘らず赤痢患者が少くならないのはどう云う訳であろうか？此れは薬品を入手し易いため、下痢患者が自分で薬を買って素人療法をする人が増えたゝめ、下痢、腹痛、発熱等が止まれば服薬を中止し、そのため生き残った菌は段々抵抗力を得て来るために、保菌者と云って、外見は健康者と変らない状態でありながら、糞便に赤痢菌を排出して居る人が増えて来て居るため、赤痢の感染源が多くなったこと、及食糧事情が好転したゝめ、外食、会食等感染機会が多くなったこと等が赤痢流行の原因であると云はれて居る。

此の保菌者即ち赤痢菌を糞便に排出する人は、一説では、大体赤痢患者として届け出られて居る者の二〇倍

あろうと云はれて居り、赤痢の流行地では、住民百人に一人位の割合で保菌者が居ると云はれて居る。然らば赤痢予防に対してどう云う注意が必要であるか。

毎年莫大な経費をかけて、保健所、役場等が食品業者の検便や、消毒班の編成、患者の隔離、治療等努力して居るのであるが、赤痢は腸チフスパラチフス等と異って、予防注射によって個体の抵抗力を増進させることが出来ず、一度患ったら免疫になると云う病気ではないので何と云っても、各個人〳〵の飲食物に対する注意が第一である。

赤痢は糞便病であり、赤痢菌の排菌者の便が蝿又は人間の手指を介して飲食物を汚染し、それを食べることによって起るのであるから、家庭にあって台所で仕事をする主婦の方々の手指の清潔に対する注意が非常に大切である。料理を調理する前には手をよく洗う様にしなければならない。又時々見掛けるが赤ちゃんの、赤ちゃんのおしめを取りかえたりした後、赤ちゃんが泣いて居たりするとつい手も洗はないでお菓子を与えたり、授乳したりすることがない様にし度いものである。

又飲食物は、料理してから時間の経って居ないものを食べる様にし度い赤痢に罹るのには或る程度の菌が増殖したものを食べるからであって、菌が少数の場合は罹らずに済むこともあり得るので、料理直後の飲食物は仮りに蝿等を介して汚染されても未だ菌の数が少くないが、時間が経つと黴菌が繁殖して来るので危険になるのである。

次に食べる方の側であるが、胃腸が健全な状態であると病菌が少し位入っても赤痢に罹らないで済むが、暴飲、暴食、寝冷え等をして胃腸が弱って居る時は、赤痢を発病し易いのであるから、何時も胃腸を健全な状態におく様注意する必要がある。

「病は口から」…赤痢も口からであるので、村民一人一人が充分に注意して赤痢のない方城村になる様望んでやまない次第である。

村民の言分

高津久雄

A氏　米国人をほめる訳ではないが、米国人は矢張り日本人に比べると、確かに文化の程度は高いと思はれる。日本では今のところコンクリート道路は都会に限られた特別の施設かの如く考えられているそうだ。農村に於ては如何によく利用されている道路でもせい〳〵砂利敷位がせきの山である。然るに福岡でも小倉でもそうであるが、米国兵の駐屯している営所では道路と云う道路、即ち主要なる道路は勿論のことだが、兵舎から兵舎に通ずる小路まで、其の全部がコンクリートの舗装道路である。勿論一時的には相当多額の工事費がかゝることゝは思われるが、永い眼で交通の安全、交通時間の短縮、交通機材の損耗、交通から受ける快適なる気持等を考えて見ることにすれば、舗装道路は大いに利益となるとも絶対に損とはならないと思われる。

方城村も文化村らしく村内の重要道路だけでも早くコンクリート舗装道路にして欲しいものだ。

文化村、赤土つけて、悪路行く。

B氏　田舎の道ですよ、なんぼ県道であるからと云うて、六米幅員なんて云う道路は大き過ぎますよ、田舎にはそんな道路の必要はありませんよ、そんな大きい道路がなくても、之まで用を済ませて来たのにね、第一耕地が潰れます。それば かりでなく、バスが通えば便利は便利かも知れませんが、子供達も今迄のように道路では遊べなくなるし危険になりますよ。それよりも八幡町の商店が第一困りましょうに、八幡町で買物を済ましていた人達迄がバスに乗って、田川市や飯塚市に行くことになりましょう。地元の商店はほんとうに迷惑し、文化は先づ道路からと云うことも考えられぬではありませんが、村当局は自分等の治績のことのみに捉われずに、村民の迷惑のことも充分考えて欲しいと思います。

C氏　俺は小学校を出ただけだが、稲でも麦でも人並には作っている人が五俵作れば俺も五俵を、六俵作れば六俵をね、此の頃は百姓にも肥培管理とか、病虫害の予防方法とか、仲〻理屈が多くなって来た。百姓も高等教育を受けて居らんと馬鹿見たように云われる。けれどもだ、学校を卒業しているからと云って、俺の倍は作りきるまい。学問々々と云はなくても百姓は結構出来るよ、麦飯喰うているからと云うて早死する訳でもあるまいし、米飯や牛乳を摂っているからと云うて百姓も長生するとは限るまい。二等列車に乗っても、三等列車で旅行しても着くときは同じだよ。高い汽車賃を払うて二等車に乗る人の気が俺には判らぬ文化なぞと云うことは、俺には関係のないことだよ……。

D氏　うち共は貧乏はしていても、毎晩何にか魚気がなければ飯は食えぬ。魚屋さんが毎日気をきかして、見計って何か必ず置いて行って呉れる。魚も食いきらずにくよ〳〵働くばかりで何が面白いか……。

昨夜の寄合で共同募金を役場から割当て来たと云うが、一戸当平均が八十円とは高い、うち共は貧乏人だから人並には納めきらない、平均額の半分位に減してもらはねば……。

税金やら募金やら、出し前ばかりが多く、こんなことでは家の者は日干になって終うが——。

E氏　国保診療所の渡辺先生はよく活動して頂いて村民感謝の声が高いが、勤務時間外の特に夜分の往診をお願いする場合、役場の取次ぎ電話では仲々時間が、かゝって不便が多い。是非診療所にも専用の電話を架設して欲しいものだ。

それと欲を云えば、各部落に出来た公民館にも電話を架設して貰えば、どれほど村民は時間的に労力的に利便を受けるかも知れない。電話があれば簡単に済む用件でもわざ〳〵役場迄出掛けなければならないのが現在だ、上弁城辺から役場に出れば、早くて半日、どうかすると一日を潰して終う。一日の賃金を三百円から四百円とすれば、役場行きの費用も相当なものだと考えさせられる。電話の架設を贅沢などと当局はよもや考えては居るまいが、之は時代の要求と考えてよい。時間尊重・労働能率の向上からしても、是非部落にて電話の一つ位は欲しいものだ。

助役さん!!貴下は考えたことがありますか——。

たばこ消費税について

方城村財務課

今回地方税法改正に依り新に町村税として、たばこ消費税が町村の収入財源となりました事は、皆様御承知の事と思いますが、之のたばこ消費税につき財務課員として、たばこ愛用者に一言お願い致します。

此の税金は皆様が毎日喫煙して居りますたばこの売上金（価格）の一一五分の一〇が、税金として村の収入となるのでありますが、徴収の方法は各小売業たばこの販売に依り特別徴収義務者（日本専売公社田川出張所長）が、村に納入する事になって居ります。

ではこの税金の各町村に納入する基礎となる金額は、どうして算出されるのかと申しますと、各町村内の小売業者が専売公社に於いて、たばこ

四月分町村別たばこ消費税調

町村名	小売価額	税額	人口 28・12・31	一人当消費額	一人当税額
川崎町	7.259.000	631.210	42.908	169.17	14.71
添田町	6 024.300	523.850	26.429	227.94	19.82
赤池町	3.151.600	274.050	17.789	177.16	15.40
金田町	3.282.300	285.410	10.632	303.71	26.84
糸田町	3.009.650	261.700	17.010	176.93	15.38
香春町	831.400	72.290	5.573	149.18	12.97
方城村	2.336.850	203.200	16.792	139.16	12.10
勾金村	1.630.350	141.760	10.494	155.36	13.50
採銅所村	467.750	40.670	3.295	141.95	12.34
猪位金村	1.467.000	127.560	7.501	195.57	17.00
大任村	1.388.700	120.750	9.372	148.17	12.88
赤村	496 200	43.140	4.888	101.51	9.82
津野村	335.550	29.210	2.646	126.96	11.03
計	31.681.050	2.754.800	175.329	180.69	15.71

を買受けた時に一一五分の十の税金を徴収される事になって居ります。でこゝでお願い申しますのは皆様が毎日喫煙するたばこをお買いになる場合は、必ず本村内の小売業者より購入される事を希望いたします。村内居住者が他市町村でたばこを買った場合は、其の税金は購入した町村の収入となるので、同じたばこを愛用されるのでありますれば、村内たばこ小売業者より購入し、村税収入の増収につき御協力をお願い致します。

長浦4Hクラブについて

改良普及員　長尾智代喜

4Hクラブとはどんなものかについては、報道機関によって一般によく認識されているので、本村に唯一つ現存している長浦4Hクラブについて紹介致します。

長浦4Hクラブの誕生は昨年の八月でまだ十ケ月足らずの赤ちゃんに過ぎず、従って実績も少く紹介といっても活動の状態を説明致す程度にすぎません。

4Hクラブの結成は公民分館の産業部の招きで開かれた講話会の席上で青年の方々の熱心さに感動致しまして、県から要望されていた一町村一クラブの結成のことをおもいまして、4Hクラブを結成してはどうかと説明致したのが動機となり、其の後二日目に結成されたのであります。

クラブの組織はクラブ員五名二十才から二十三才の独身者で、会員が少いため会長と会計の役員にとどめています。それから篤志指導員と致しましては、石橋勝己氏にお願いし会の運営に対して助言を聯いています。

会の運営は毎月十日に定例会を開くことにし、他に一日会員の協議のもとに臨時会を設け長浦公民分館に於いて農事研究・プロゼクトの計画打合せ・体験発表・意見の交換等を行っています。又、毎月二回私の巡回する時を利用して全員でクラブ員のプロゼクトや経営状態を見学して研究をしています。其の他、先進地の視察や種子・資材・農薬の共同購入を行っています。将来は蔬菜類の一代雑種の共同採種をやりたいと望んでいます。

結成から今までの活動内容と申しますと、最初にプロゼクトとしてとりあげたのは、秋蔬菜の中で白菜・大根の栽培で、品種・肥料播種期等の研究は將来のため大いに役立ちます。

(四面上段に続く)

尚娯楽としてパチンコを皆様がおやりになる場合も同様の結果となるのでありまして、なぜ私が此の様な事を今更申上げるかと申しますと、現在四月分のたばこ消費税が本村の収入として入って参りましたが其の税額を郡内他町村に比較検討いたしますと別表の通り、人口に比較し税金は少なく、お隣りの金田町については相当の税収入になって居ります事は、此の表を御覧になればお判りの事と思いますので是非実行して頂く様御協力お願いします。

方城村水稲施肥基準

改良普及員　長尾智代喜

県に於いて設定された施肥基準を参考とし方城村の施肥基準を次の通り作成しました。土地の肥痩・品種・栽培法・日照時間等を考慮して更に各圃場に適するよう施肥量を増減し増産の一助として下さい

一、山間部

例	肥料名	元肥 施肥量	元肥 施肥法	追肥 第一回 施肥量	追肥 第一回 施肥時期	追肥 第一回 施肥法	追肥 第二回 施肥量	追肥 第二回 施肥時期	追肥 第二回 施肥法
1	堆肥	二〇〇貫	耕起前全面撒布						
	石灰窒素		灌水五—七日前に鋤き込み						
	硫安	六							
	トーマス燐肥又は過リン酸熔成燐肥	五—八	代掻きのとき浅水として撒布鋤き込み又は代掻き施用	一—二	七月十日—二十日	除草前に浅水として撒布			
	塩化加里	三		一	七月十日—二十日	除草前に浅水として撒布			
2	堆肥	二〇〇貫	例1に同じ						
	尿素	二、七	灌水四—七日前鋤き込み	〇、四五—〇、九	七月五日—十五日	浅水として撒布し水をそのまま土壌に吸収させて灌水する			
	燐酸・加里は例1に同じ	一	代掻きに浅水として撒布						
3	堆肥	二〇〇貫	例1に同じ						
	硫安	六	灌水一—四日前に鋤き込み	一—二	七月十日—二十日	除草前に浅水として撒布			
	燐酸・加里は例1に同じ	一	代掻きに浅水として撒布						

第二回の追肥は出穂前二十五日を適期とする。追肥の量は稲の葉色により淡黄緑色の場合は硫安一貫内外と塩化加里一貫を施用し、これより葉色よき場合は其の程度により施肥量を減ずる

二、中間及び平坦部

例	肥料名	元肥 施肥量	元肥 施肥法	追肥 第一回 施肥量	追肥 第一回 施肥時期	追肥 第一回 施肥法	追肥 第二回 施肥量	追肥 第二回 施肥時期	追肥 第二回 施肥法
1	堆肥	二〇〇貫	鋤き込みとする						
	石灰窒素		灌水五—七日前鋤き込み						
	硫安	六							
	トーマス燐肥又は過リン酸熔成燐肥	八	代掻きのとき浅水として撒布鋤き込み又は代掻き撒布	二	七月二十日頃	除草前浅水として			
	塩化加里	三							
2	堆肥	二〇〇貫	鋤き込みとする						
	硫安	六	灌水一—四日前鋤き込み	二	七月二十日頃	除草前浅水として	一—二	出穂廿五日前	浅水として
	燐酸・加里は例1に同じ	一	代掻き撒布						
3	堆肥	二〇〇貫	鋤き込みとする						
	硫安	六	灌水四—七日前鋤き込み	〇、九	七月十六日頃	浅水として撒布し水をそのまま土壌に吸収させてから灌水する	〇、四五—〇、九	出穂三十日前	浅水として撒布して水をそのまま吸収させてから灌水する
	燐酸・加里は例1に同じ	一	代掻きのとき浅水として						

平坦部は燐酸肥料の施用量を四—五貫に減じても差支ない。第二回の追肥は稲の葉色により増減する

した。（4Hクラブ田川地区大会に於いて発表）春夏作では温床育苗と果菜の栽培をとりあげ、二月六日温床蹋込み、二月十一日播種、三月二十日移植、四月下旬定植と現在夏作蔬菜の管理中です。

私は講話会の席上部落の人から長浦には野菜はできないかと云う質問を受けたことを記憶している。4Hクラブ員は今懸命に科学的技術の体得によって、事実を持って此の言葉を打消しつつある。クラブ員の中の一名は若くして父をなくした人で農業経営主であり、残り三名も数年後には経営主とならねばならぬ立場にある人で、プロゼクトに農事研究に熱と意気が覗われる。私は此のクラブが今後何十年も永続するよう更に父兄・村当局は勿論諸賢の御理解と援助をお願い致すものであります。

農業振興は天地の法則

千手兼吉

◎天地の法則については前号を参照願うこととし、もし私達の農業生産が大昔からの習慣に捉われているのみで、そこに何ら改善がないとするならば、天地の恵にすまないことになります。見方によれば真に労苦の多い仕事だと思いますが、又考え様によれば自然を対象に凡ゆる植物のすおなな姿を、朝に夕に相手としたすがくしい生活は、人生の職業中最上位であり誇るべきものであります。

稲の花の開いたり、つぼんだりする姿を静かに見る時には天地に合掌せずには居られないと思います。

私達人間が食糧生産のために働いている事はこれ程尊い天業はなく、そこに骨折りや歩方を越悦するものが必ずあると思います。

こゝに誇りがあると同時に又責任があるのです。生産は天地の法則により出来て居るので、採りそこなへば相すまない事をしたと考へて、自分が研究して自分の力で採ると思うから生産が思い通りに行かないのであります。

又生産の増収が出来たとしても誰かゞ研究して採れる様にしたものでなく、天地の法則により以前からとれる様に出来て居るのであります。

何事にも事をなすには深く興味を感じなければ、其中に生命を見出す事は出来ない。其の生命に通ずる時に作物の喜びを見て自分の喜びとなるのであります。

又そこに作物の生育環境を見て施肥の合理化があります。次に二十八年産日本一米作五石八斗三升収穫栽培法をお知らせします。

三潴郡浦池村　樽見一郎先生

一、品種　ベニ千石農林八一号

二、採種法　無病稲をとり穂うらをふみ落す。種子ウスブルン消毒

三、健苗育成　三潴式改良苗代

イ、冬耕堆肥充分すき込み地力を作り風化させる。

ロ、床の平均、ウス時、もちがら堆肥のふく土

ハ、芽干・播種後十日間芽干を行う。

二、床水のかけひき

初め十日間薄のみ、水をかける。次に十日間苗を水にならす。

次に二十日間床に水をいれて干ぬこと、苗床期間は約四十日間とする。

四、本田元肥

石灰二五貫、荒耕七日前施す、堆肥七〇〇貫

化成肥料一〇貫

尿素一貫五〇〇匁

トーマス六貫

塩化加里三貫

此等を荒耕に施す

個形肥料一二貫、代がきに施す

追肥

穂肥として化成肥料七貫

塩化加里一貫

肥料成分合計窒素二貫六八〇匁

燐酸二貫六六〇匁、加里三貫四九〇匁

但し堆肥の肥料成分は別

五、植方　南北九寸二分、東西七寸

六分

六、病虫害防除ホルゾール七月十五日、二十五日、八月二十五日

以上先生のお話の大要ですが、要点は一、品種二、健苗育成三、施肥の合理化です。

苗床は冬耕堆肥の増施で地力を作り、うす蒔、芽干で健苗を作り本田は堆肥で地力を作り燐酸加里に重点を置き、早きゝの肥料を少なくして長くきく肥料で元肥に重点を置いて居ると云う様な事は、すべての栽培が今迄にみない進歩改善であると思います。

本村にしても健苗の育成と施肥の合理化が出来れば反増収一俵は必ず与へられる事と思います。

どうか皆様の心の所願を、しっかりと極められて増収の道を求められん事をお祈り致します。

九州一周農事視察の記

農業委員会

農事視察のため鹿児島、宮崎、大分の各試験場を訪問し指導を受けましたが、この内特に目新しいもののみ御報告致します。四月二十三日夜行にて金田駅を出発、翌日午前七時鹿児島に到着致しました。先ず鹿児島農業試験場を訪問、当地では主として農機具並に麦の試作状況を見学しましたが、農具については各種新式農具の内背負型散粉器が目に止りました。これは共立、宿谷、初田の製品で重量四貫目、反当り散粉量三キロ、散粉時間十五分であり、非常に能率的であるので今後の害虫防除には是非奨励したいものと思います。

次に水田の一期作として丁度田植が初められておりましたが、係員の説明によると第一期は三月十日頃播種し、苗床期間が四十日、田植が四月中旬、七月下旬に収穫する事になっており、第二期は田植が八月上旬、十一月中旬に収穫を初める事になっており、この二回で約五石程度の収穫ださうであります。

麦では裸白麦八号、晩生四国裸五号中生等が特に良いので試作用の種子をお願いしております。次に観光地について特に驚いたのは桜島の熔岩原であります。海上連絡船で二十分間で着島、噴火は文献によると約千四百年前に始まり其の後三十四回噴火し、中でも大正三年一月十二日の大爆発で熔岩流は海を埋めており、その壮厳なる実況は全く人智では計り知れないものがあり、自然の威力には全く驚嘆の外ありませんでした

当日は以上二ケ所を視察し同市に宿泊、翌二十五日早朝宮崎へ向って出発致しました。

宮崎では、最初に観光バスで青島を見ましたが特に珍しきものは、神社周辺の岩層の自然美で恰かも人工ではないかと思われる程でした。又島内では他で見る事の出来ない熱帯植物ばかりで、特にバナゝの結実の実況は見事なもので、誠に思いを残すものが多かった次第であります。当日は宮崎市に宿泊、翌二十六日は又早朝より宮崎農業試験場に行き園芸部児玉技師より早生胡瓜・南瓜栽培の実地指導を受けましたが、之について要点のみお知らせします。苗床は床に踏み込み、温度を出さず一重床として光線熱で発芽させる特別の技術です。同氏の説明によれば、この方法は北九州地帯でも出来るとの事でありました。品種は胡瓜落合二号、日向二号、南瓜は日向十四号で出荷日本一を誇る早生種であります

播種は十二月下旬、第一回移植（豆葉七分開）七日目頃、第二回（本葉二枚半の頃）本葉四枚の頃根の切りまわし、其の後十日内に定植、本葉五・六枚の頃、本田畦巾六尺、株間六寸一条として「ビニール」をかぶせる。又竹立ては両側一尺二寸間に立てる。

南瓜は苗床としては胡瓜と同様ですが、つるの出し方が又特別の方法であり、一節を残し三節目より五節の間に二本を取り、本芽共三本仕立とします。本田畦巾六尺、株間三尺、反当六百株を植へ、薬剤は銅製剤を苗床の時より七日毎に行う事になっております。

温床の技術としては他に見られない権威者であると思いました。午後一時半宮崎駅出発、大分に宿泊し翌二十七日朝大分農業試験場を見学、米麦担当者田原技師の話を承りたる所西海裸二号早生、改良裸中生、小麦農林六十号・六十一号等が増産品種として最適だそうです。

園芸関係では飛高技師により胡瓜落合二号、南瓜相津早生、トマト福寿二号、世界一三元交配等でありますが、栽培法は本村と大差ない様でありますが、苗床定植前の「ズラシ」及薬剤散布には特に注意を要するとのことです。以上の視察を終り二十七日夜帰野致しました。視察地に於ける詳細なる事項は御集合の折を利用し御報告申上ます。

開館日数24日

分類別	男	女	計	一日平均
総記	32	44	76	3.2
哲学	4	0	4	0.2
歴史	79	30	109	4.5
社会	7	7	14	0.6
自然科学	3	1	4	0.2
産業	10	1	11	0.5
芸術	185	126	311	13.0
語学	7	2	9	0.4
文学	311	217	528	22.0
計	638	428	1066	44.6

五月分閲覧統計

職別	男	女	計	一日平均
官公吏	51	26	77	3.2
炭鑛	20	0	20	0.8
農業	29	0	29	1.2
商業	2	0	2	0.1
学生	33	21	54	2.3
牛徒	238	184	422	17.6
児童	59	25	84	3.6
其他	8	7	15	0.5
の職	4	8	12	0.5
無				
計	444	271	175	29.8